

令和6年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立朝酌小学校

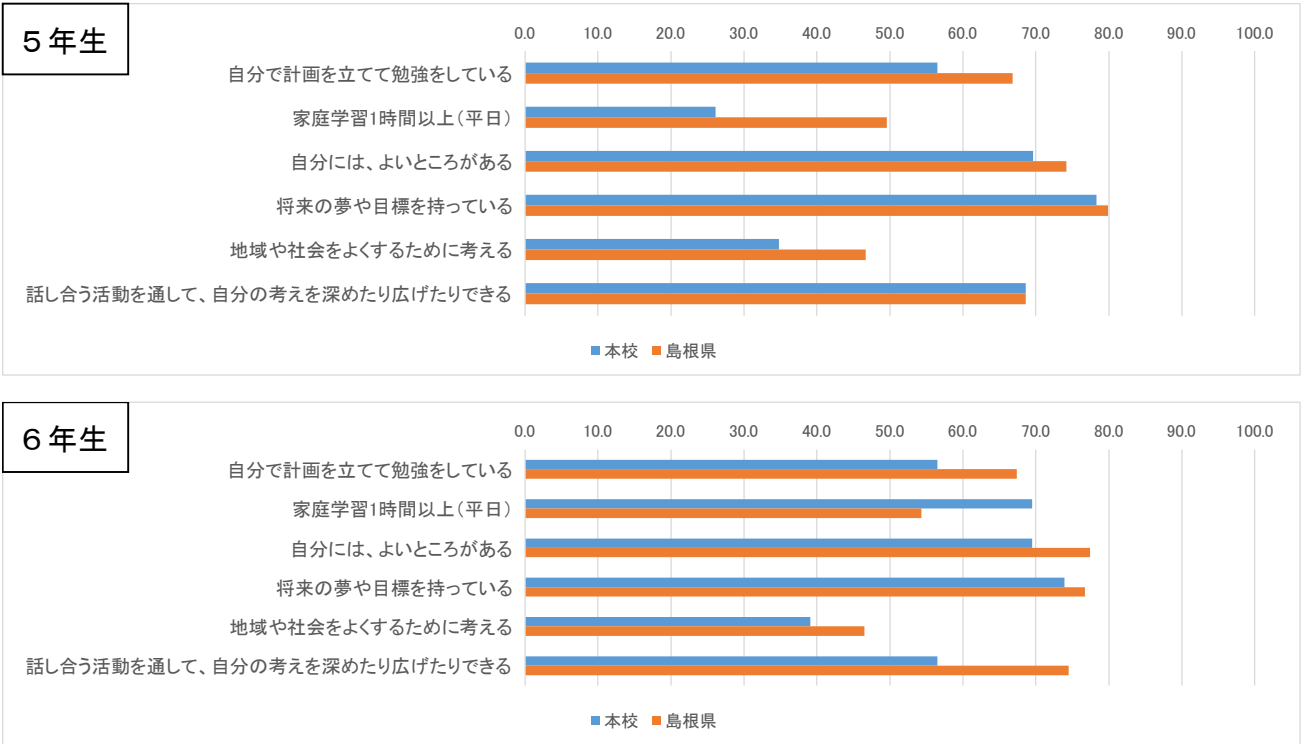
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
国語	●時間内にすべての問題が解けていない児童が大半で、無解答が多くなっている。 ●その中でも、「書くこと」に関する問題で報告文を書けなかった児童が13名、文章が書けなかった児童が18名となっており、情報を処理するのにかかる時間を相当速くする必要があると言える。 ●主体的に学習に取り組む態度でのマイナス評価を受けた児童が20名と大変厳しい数値が出ている。普段の国語学習の在り方を根本から見直していく必要がある。	○物語文において、登場人物の心情を読み取ることは長けている。 ●正しい答えを選んだり読み取ったりする問題でなく、自分の考えを”文章に表す”問題について、指定された長さや段落、必ず触れないといけない事柄などの条件を漏らさずに書ききる児童が少なかった。 ●長文の物語文や説明文を最後まで読んで理解する”読み取る力”が不足している。またそれに加え、読む時間もかかるため問題の後半に行くにつれ、無回答が目立つようになった。
算数	●時間内にすべての問題が解けていない児童が大半で、無解答が多くなっている。大問14番以降の無解答が特に著しい。 ●教科の評定で1の児童が64%で、普段の学習がきちんと理解できておらず、わからない状態がそのまま放置されていることが窺える。 ●主体的に学習に取り組む態度でのマイナス評価を受けた児童が16名と大変厳しい数値が出ている。普段の算数学習の在り方を根本から見直していく必要がある。	○日常生活の場面において、「比」の考え方を使って、一方の量からもう一方の量を求めることができる。またなぜその考え方を用いたのかを分掌や式で説明することができる。 ●単位量あたりの問題において、文章やテープ図からどれが「もともとなる量」でどれが「比べる量」でどれが「割合」を表しているのかを整理し、かつ「比べる量」を求めるには「もとにする量」が何倍になっているかと考え、かけ算を用いることができていない。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
意識	●宿題はちゃんとやるが、丁寧にできない児童が多く、せっかくなってしまうことが学ぶ力として定着しにくくなっている。 ●時間を決めてテレビを視聴している児童の割合が低い。「すべきことを先に済ませる」ことが習慣化されていない。家庭での時間の使い方について、今後も指導する必要がある。 ●自己肯定感の低い児童については、成功体験を積み重ねるなどにより、向上心を高める必要がある。	○平日に1時間以上の家庭学習に取り組んでいる児童が多い。また、国語算数の授業を中心に、先生の話をしっかり聞いている児童が多い。学習に向かう基本姿勢ができていいると言える。 ●夜寝る時間を決めている児童の割合が低い。それに加え平日の睡眠時間が7時間未満の児童の割合が県平均に比べ高い。睡眠が体の成長や健康、学力に及ぼす影響についてさらに指導し、家庭にも啓発していく必要がある。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R6学力調査受検者数】

5年生 23 名

6年生 22 名

(欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)